

法政大学大学院
社会学研究科 社会学専攻 博士後期課程

研究業績目録

2024年3月31日現在

目次

加藤 徹郎 (1)

高橋 賢次 (4)

松下 峻也 (6)

鰐部 行崇 (8)

ふりがな 氏 名	かとう てつろう 加藤 徹郎
専攻	メディア論, 身体論, 歴史社会学
平成14年	年 3 月 社会学 修士学位取得 (法政大学)
	年 月 学 博士学位取得 (大学)
所属学会	マスコミュニケーション学会, 日本社会学会

学歴	
平成10年 3月	明治学院大学法学部法律学科卒業
平成11年 4月	法政大学大学院社会科学研究科社会学専攻 修士課程 入学
平成14年 3月	法政大学大学院社会科学研究科社会学専攻 修士課程 修了
平成14年 4月	法政大学大学院社会科学研究科社会学専攻 博士後期課程 入学
平成20年 3月	法政大学大学院社会科学研究科社会学専攻 博士後期課程 単位取得退学
職歴	
平成15年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント (「メディア分析実習」担当、16年3月まで)
平成17年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント (「メディア社会学入門」担当、19年3月まで)
平成19年 4月	淑徳大学国際コミュニケーション学部兼任講師 (「映像表現法」担当、20年7月まで)
平成19年 4月	淑徳大学国際コミュニケーション学部兼任講師 (「マス・コミュニケーション論」担当、28年3月まで)
平成19年 4月	淑徳大学国際コミュニケーション学部兼任講師 (「比較マスコミ論」担当、20年7月まで)
平成19年 9月	淑徳大学国際コミュニケーション学部兼任講師 (「映像表現法演習」担当、21年3月まで)
平成20年 4月	法政大学社会学部兼任講師 (「演習3」担当、21年3月まで)
平成20年 4月	法政大学社会学部兼任講師 (「歴史社会学 I・II」担当、22年3月まで)
平成20年 9月	十文字学園女子短期大学 社会情報学部兼任講師 (「メディア文化研究」担当、25年3月まで)
平成21年 4月	淑徳大学国際コミュニケーション学部兼任講師 (「メディア表現総論」担当、21年7月まで)
平成21年 9月	十文字学園女子短期大学 社会情報学部兼任講師 (「マス・コミュニケーションの社会心理学」担当、24年3月まで)
平成22年 4月	法政大学社会学部兼任講師 (「外書講読 I・II」担当、23年3月まで)
平成23年 4月	淑徳大学国際コミュニケーション学部兼任講師 (「ICT論」担当、23年7月まで)
平成23年 4月	法政大学社会学部兼任講師 (「コンピュータ入門/プログラミング入門」担当、継続中)
平成23年 4月	法政大学社会学部兼任講師 (「メディア分析入門」担当、24年3月まで)
平成23年 9月	淑徳大学国際コミュニケーション学部兼任講師 (「経営情報コミュニケーション論」担当、24年3月まで)

平成24年 4月	法政大学社会学部兼任講師 (「コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ」担当、25年3月まで)
平成24年 9月	文教大学社会情報学部兼任講師 (「メディア・リテラシー」担当、 継続中)
平成25年 4月	淑徳大学国際コミュニケーション学部兼任講師 (「情報基礎・応用演習」担当、27年3月まで)
平成26年 4月	淑徳大学人文学部兼任講師 (「情報処理法・情報管理法」担当、)
平成26年 4月	恵泉女学園大学人間社会学部現代社会学科兼任講師 (「コミュニケーション論」担当、30年7月まで)
平成26年 9月	文教大学社会情報学部兼任講師 (「情報社会のリテラシ」担当、 継続中)
平成29年 3月	文教大学社会情報学部兼任講師 (「ゼミナールA・B」担当、令和元年3月まで)
平成29年 4月	法政大学社会学部兼任講師 (「プログラミング初級」担当、 継続中)
平成29年 9月	法政大学社会学部兼任講師 (「プログラミング中級(ウェブ・プログラミングB)」担当、令和4年3月まで)
平成30年 4月	法政大学社会学部兼任講師 (「ウェブメディア論Ⅰ・Ⅱ」担当、令和元年3月まで)
平成30年 4月	法政大学社会学部兼任講師 (「マス・コミュニケーション論」担当、令和元年7月まで)
令和元年 4月	法政大学社会学部兼任講師 (「デジタル情報環境論・デジタル情報環境分析」担当、令和2年3月まで)
令和2年 4月	法政大学社会学部兼任講師 (「マス・コミュニケーション論」担当、令和4年7月まで)
令和2年 4月	法政大学社会学部兼任講師 (「演習2」担当、令和3年3月まで)
令和2年 4月	法政大学社会学部兼任講師 (「演習3」担当、令和5年3月まで)
令和4年 4月	淑徳大学人文学部兼任講師 (「情報社会とデータサイエンス」担当、 継続中)
令和5年 4月	淑徳大学人文学部兼任講師 (「情報リテラシー・データリテラシー」担当、 継続中)

著書

藤田真文・岡井崇之編

『プロセスの見えるメディア分析入門』世界思想社、2009年(第2章「筋書きのないドラマの「語り」を探る—スポーツダイジェスト番組『熱闘甲子園』における物語論』を分担執筆、pp11-36)

金井明人・土橋臣吾・津田正太郎編『現代社会研究叢書

10 メディア環境の物語と公共圏』法政大学出版局、2013年(第4章「文芸的公共圏としてのレコード喫茶の生成過程 戦前の複製芸術文化を中心に」を分担執筆、pp103-128)

武田 徹・藤田 真文・山田 健太

監修『ジャーナリズム辞典』三松堂、2014年(「パワーエリート」「ブロードサイド・バラッド」など9項目を分担執筆)

小林

直毅編『原発震災のテレビアーカイブ』法政大学出版局、2018年(第2章「生活情報番組における原発震災の「差異」と「反復」」を分担執筆、pp59-96)

西山 哲郎・谷本

奈穂編『身体化するメディア／メディア化する身体』風塵社、2018年(第7章「一九三〇年代、「体力」時代の身体-筋肉表象—若木竹丸『怪力法 並に 肉体改造・体力増進法』を中心事例として」を分担執筆、pp183-213)

学術論文(うち査読付き 3本)

『身体の異端史 —近代日本の「健康法」における「腹力呼吸法」の意義—』修士学位論文、2002年

「〈健康関連広告〉の内容分析—身体表象についての—考察—」『法政大学院紀要』第52号、2004年
「文芸的公共圏としてのジャズ喫茶の生成過程～1930年代の複製芸術文化を中心に～」法政大学社会学部科研費プロジェクト「公共圏の創成と規範理論の探求— 現代的な社会問題の実証研究を通して—」、2010年
「メディア・公共圏・オーディエンス～ マス・コミュニケーション効果論からみた‘大衆的公共圏’の検討～」法政大学社会学部科研費プロジェクト「公共圏の創成と規範理論の探求— 現代的な社会問題の実証研究を通して—」、2011年
「生活情報番組における「放射」報道の変化～報道番組アーカイブのメタ・データよりみる人為時事性の考察～」法政大学サステナビリティ研究所『サステナビリティ研究 Vol.5 』、2015年
「3月ジャーナリズムの中で、ニュースは何を話し・語り・伝えてきたのか — 東日本大震災・テレビ報道アーカイブにおけるメタデータの語用論 —」日本大学法学部『ジャーナリズム&メディア 第10号』、2017年
「テレビドラマにおける若者風俗の社会史的検討～ 『今日から俺は!!』にみる“80年代不良表象”の批評性～」淑徳大学人文学部『研究論集 第7号』、2022年
「協働学習の主体における正統的周辺参加～実践コミュニティとしてのSA制度～」淑徳大学人文学部『研究論集 第8号』、2023年
「2022年度後学期を中心としたSA制度運用状況～ SAへのヒアリングと受講生アンケートの結果から～」淑徳大学人文学部『研究論集 第9号』、2024年
学会発表・招待講演
「近代日本の〈健康法〉における〈ハラ呼吸法〉の生成と迷走—身体の「中心」をめぐって—」第50回関東社会学会大会、於法政大学、2002年
「『健康関連広告』の内容分析—その身体表象についての—考察—」日本マス・コミュニケーション学会、於長崎シーボルト大学、2003年
「近代日本の「丹田呼吸」、その歴史的検討と身体論的意義について」第78回日本社会学会大会、於法政大学、2005年
「テレビCMにおける身体感覚表象の分析— 曖昧な「感覚」を伝える表現技法についての考察 —」日本マス・コミュニケーション学会、於東京国際大学、2010年
「身体表象の「内」と「外」～1930年代のボディビルダー、若木竹丸を事例として～」カルチュラル・タイフーン2017 於早稲田大学、2017年
(共同報告)ワークショップ「テレビが記録した『震災』『原発』の3年 — 震災関連放送アーカイブの可能性と課題—」日本マス・コミュニケーション学会、於東洋大学、2014年
(共同報告)「“3月ジャーナリズム”化する震災TV報道」日本大学新聞学部シンポジウム、於日本大学、2017年
研究報告書・翻訳など
秋季研究会ワークショップ報告書「テレビが記録した『震災』『原発』の3年 — 震災関連放送アーカイブの可能性と課題—」日本マス・コミュニケーション学会『マス・コミュニケーション研究 87(0)』、2015年
特記すべき事項

ふりがな 氏 名	たかはし けんじ 高橋 賢次		
専攻	理論社会学, コミュニケーション論		
社会学	2011年	3月	社会学 修士学位取得 (法政大学)
	年	月	学 博士学位取得 (大学)
所属学会	日本社会学会, 社会学研究会		

学歴	
2009年 3月	法政大学社会学部社会政策科学科卒業
2011年 3月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程修了
2021年 3月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程単位取得満期退学
年 月	
年 月	
職歴	
2012年 4月	法政大学社会学部T・A(「社会学入門B」担当, 2014年3月まで)
2015年 4月	法政大学社会学部兼任講師(「社会学理論A-I」担当)
2017年 4月	法政大学社会学部兼任講師(「基礎演習I・II」担当, 2023年3月まで)
年 月	
年 月	
年 月	
年 月	

著書
学術論文(うち査読付き2編)
「『他者と共に在ること』を問いなおす—社会学の前提的構制における『他者問題』の検討」法政大学大学院社会学研究科修士課程学位請求論文.
「『他者との倫理的関係』とは何か—J.バトラーにおける『倫理への転回』を手がかりとして」『現代社会学理論研究』第9号, 2015年, pp.67-80. (査読有)

「あなたの立ち現れなさをめぐって—人称的世界の成立とその応答的基盤を問いなおす」
『現象学と社会科学』第6号, 2023年, pp.5-21.

「ヘヴンの向こう側へ—『世界の内に生きること』をめぐる文学的応答」『現象学と社会科学』第6号, 2023年, pp.123-139. (査読有)

学会発表・招待講演

「J. バトラーにおける〈倫理〉の主題系に関する理論的考察—『他者に対する応答=責任』の社会学的展開可能性を探る」日本社会学理論学会第7回大会, 於立命館大学, 2012年9月

「『他者経験』への社会学的接近—現象学的社会学の発生論的展開における『他者問題』の批判的再検討を起点に」日本社会学理論学会第9回大会, 於関西学院大学, 2014年9月

「『ヘヴン』の向こう側へ—『世界の内に生きること』をめぐる文学的応答」日本現象学・社会科学会第39回大会, オンライン開催, 2022年12月

「『あなた』の立ち現れなさをめぐって—人称的世界の成立とその応答的基盤を問いなおす」日本現象学・社会科学会第39回大会シンポジウム報告, オンライン開催, 2022年12月

研究報告書・翻訳など

特記すべき事項

ふりがな 氏名	まつした しゅんや 松下 峻也
専攻	社会学
2016年3月	社会学 修士学位取得 (法政大学)
年月	学 博士学位取得 (大学)
所属学会	日本メディア学会、日本社会学会

学歴	
2014年 3月	法政大学社会学部メディア社会学科 卒業
2014年 4月	法政大学社会学研究科社会学専攻 修士課程 入学
2016年 3月	法政大学社会学研究科社会学専攻 修士課程 修了
2016年 4月	法政大学社会学研究科 研究生 (2017年3月迄)
2017年 4月	法政大学社会学研究科社会学専攻 博士後期課程 入学
2020年 3月	法政大学社会学研究科社会学専攻 博士後期課程 満期退学
職歴	
2020年 4月	法政大学社会学部兼任講師「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」(現在に至る)
2020年 4月	法政大学経済学部兼任講師「社会学A・B」(現在に至る)
2020年 4月	法政大学社会学部兼任講師「ジャーナリズム論A」(2020年9月迄)
2021年 10月	法政大学社会学部兼任講師「メディア社会学特講(分析)」(現在に至る)
2022年 4月	法政大学社会学部兼任講師「専門演習Ⅱ・Ⅲ」(2023年3月迄)
2022年 4月	大東文化大学社会学部非常勤講師「マスコミ史」(現在に至る)
2023年 4月	江戸川大学メディアコミュニケーション学部非常勤講師「メディア社会学」(2023年9月迄)
2023年 10月	新島学園短期大学キャリアデザイン学科非常勤講師「文化社会学」(現在に至る)
2024年 4月	江戸川大学社会学部非常勤講師「現代社会学概論Ⅰ・Ⅱ」(現在に至る)
著書	
松下峻也, 2018, 「第六章 核エネルギーのテレビ的表象の系譜学」小林直毅編著『原発震災のテレビアーカイブ』法政大学出版局.	
松下峻也, 2023, 「第四章 社会に警鐘を鳴らす」「コラム ジャーナリズムの記録とアーカイブ」別府三奈子・飯田裕美子・水野剛也編著『映画で学ぶジャーナリズム——社会を支える報道のしくみ』	
学術論文(うち査読付き 1編)	
松下峻也, 2015, 「メディア・アーカイブとテレビ——テレビ・ドキュメンタリー研究の再考」『社会研究』第45号.	
松下峻也, 2016, 修士論文「核の表象と経験、そして記憶——テレビの記録と技術としてのアーカイブ」法政大学社会学研究科(2016年度提出)	
松下峻也, 2018, 「アーカイブ化されたテレビ番組が描くビキニ事件」『マス・コミュニケーション研究』第92号.	

松下峻也, 2019, 「記録としてのテレビ番組が描く『核と人間』」『社会志林』第66巻第3号.

松下峻也, 2021, 「記憶と記録としての水俣病事件」『法政大学大学院紀要』第86号.

学会発表・招待講演

日本マス・コミュニケーション学会研究報告会「核をめぐるテレビ番組の系譜学と、原発震災のテレビアーカイヴ」(2018年6月23日学習院大学)

法政大学社会学部学会第27回社会学コロキウム=シンポジウム『記憶と記録』報告「記録技術としてのテレビが描く福島原発事故」(2019年7月6日法政大学)

研究報告書・翻訳など

松下峻也, 2018, 研究ノート「『八月ジャーナリズム』が描く被爆と『長崎』で想起する朝鮮人被爆者の記憶」『社会研究』第48号.

特記すべき事項

ふりがな 氏 名	わにべ ゆきたか 鰐部 行崇
専攻	開発援助問題、社会学、ベーシックインカム研究
2000年 3月	経営学 修士学位取得（法政大学）
年 月	学 博士学位取得（ 大学）
所属学会	国際開発学会

学歴	
1989年 3月	早稲田大学法学部卒業
2000年 3月	法政大学社会科学部経営学専攻修士課程修了
2018年 4月	法政大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程入学
職歴	
1989年 4月	株式会社東京銀行(現株式会社三菱UFJ銀行) 入行(2012年5月まで)
2012年 6月	特定非営利活動法人日本リザルツ 入職(2015年7月まで)
2022年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会学入門A」、2023年3月まで)
2023年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会学入門A」、2024年3月まで)
2022年 3月	特定非営利活動法人アジア・アフリカ研究所 編集委員(現在に至る)
2023年 5月	特定非営利活動法人アジア・アフリカ研究所 総務会計担当(現在に至る)

学術論文(うち査読付き2編)	
修士学位論文「日本のベンチャーキャピタルのMBO(Management Buy-Out)活動に関する研究——英国のベンチャーキャピタルのMBOビジネスから学ぶ新たな方向性」、2000年	
論文「日本におけるマイクロファイナンス研究の課題と展望」アジア・アフリカ研究、第58巻第1号、2018年、pp22-49	
研究ノート「新自由主義に侵食されるマイクロファイナンス」アジア・アフリカ研究、第59巻第2号、2019年、pp28-51(査読あり)	
論文「グラミン銀行は何をもたらしたか——マイクロファイナンスによる成功者と多重債務化する人々」アジア・アフリカ研究、第62巻第2号、2022年、pp59-90(査読あり)	
学会発表・招待講演	
「バングラデシュBRAC研究報告」一橋大学秋季公開講座「小口金融が世界を変える～マイクロファイナンスの可能性～」、2014年10月	
「マイクロファイナンスを事例とした多国籍企業の活動に対する一考察——Lスクレアーを手掛かりに」、アジア・アフリカ研究所研究会、於法政大学、2018年11月	
「グラミン銀行は何をもたらしたのか——マイクロファイナンスによる成功者と多重債務化する人々」国際開発学会第32回全国大会、於金沢大学(オンライン)、2021年11月	
「マイクロファイナンスがもたらす問題——バングラデシュの実情を踏まえて」、アジアアフリカ研究所研究会、オンライン開催、2022年6月	
研究報告書・翻訳など	
【研究報告】「BRAC研修報告」特定非営利活動法人日本リザルツ(NGO海外スタディプログラム研修報告)、2014年	

論文翻訳及び解説「債務の罟と無条件のベーシックインカム：インドの経験からの教訓」アジア・アフリカ研究、第59巻第2号、2019年、pp52-57